修復家が語る絵画の技法

ー古典絵画から現代アートまでー

講師　元ルーブル美術館修復員・絵画修復家
加賀　優記子

ルネッサンス期以前に描かれたヤン・ファン・アイクの作品が、今日に至っても画面にさほどダメージが生じていないのに対して、近代に入ってからの印象派以降の作品に、多く、ひび割れ、剝落等の傷みが現れるのは何故か。

この講座では、スライドを見ながら修復家の立場からの技法史を解説し、また、ダメージのこない作品制作のヒントをお話します。修復に興味のある方は勿論、日頃制作の際に作品の耐久性に悩んでいらっしゃる画家の方々にも参考にある内容かと思います。また、今回は、現代美術においての修復についても詳しくお話します。

〈講師紹介〉かが・ゆきこ

1982年武蔵野美術短期大学油絵専攻科卒業。84年渡仏、パリ国立美術大学に学ぶ。86年ルーブル美術館修復家クリストフ・クシェジェンスキー氏に師事。89年クシェジェンスキー氏の弟子として、ルーブル美術館契約修復員となり、ルーブル宮殿天井画、コングルの間、ドラクロワ作サルダナパリコスの死、その他の修復作業に従事する。92～94年フランス国会議事堂ドラクロワ天井画他修復研修。89年「鎌倉美術修復工房」設立。ルノワール、モネ、ピカソ、レジェ、フジタ他日本の画家多数修復。IIC(THE INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CONSERVATION)会員。